【博展×テッグ株式会社】“入りたがらない”に応える、あそべるカームダウンハウス「ここにぃ」を感覚過敏研究所と共同開発

感覚過敏や発達特性のある子どもが、遊びながら自然に心を整えられる空間へ。



博展（本社：東京都中央区）は、テッグ株式会社（本社：京都府京都市）が展開するプロジェクトに企画・共同開発として参画し、感覚過敏研究所の監修のもと、遊具としても使える新しいカームダウンハウスのシリーズ「ここにぃ」（まる／しかく）を開発しました。「カームダウンハウスに入りたがらない」という声から着想を得て、日常の遊び空間に自然に溶け込むデザインを追求しています。大人向けの大型製品と子ども向けの簡易品が中心だった市場に、子どもが毎日使える新たな選択肢を提示するものでもあります。2026年11月より販売を開始しています。

■ 開発の背景：“特別な場所”だから、入りたがらない

視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚などの感覚が過敏になり、日常生活に支障をきたす状態を指す「感覚過敏」。感覚過敏は病気そのものではなく、発達障害やパニック障害など、さまざまな疾患・障害にみられる症状のひとつとされています。自閉症・情緒障害の特別支援学級に在籍する小中学生は、2009年の49,955人から2023年には196,502人と約3.9倍に増加しており※1、自閉スペクトラム症のある子どもの6〜9割には、感覚の過敏さなどの問題が併存するとされています※2。

学校や保育園、職場といった集団生活の場では、音や光、人との関わりから受ける刺激によって疲れや不安を感じやすい人が少なくありません。2024年4月には改正障害者差別解消法により事業者の合理的配慮の提供が義務化されました※3。カームダウン・クールダウンスペースも、駅や博物館、学校など幅広い現場で設置が進んでいます。

一方で学校や保育園・幼稚園などの現場からは、「カームダウンハウスを“特別な場所”だと感じ、自分から入りたがらない子どもがいる」という声も寄せられていました（テッグ株式会社調べ）。感覚過敏のある子ども自身が、疲れや不安といった自分の状態を言葉で表現できないことも多く、本来支援が必要な瞬間に活用されにくいという課題があります。



※1　文部科学省「特別支援教育資料（平成21年度）」（平成21年5月1日現在）、同「特別支援教育資料（令和5年度）」（令和5年5月1日現在）。いずれも学校基本調査に基づく数値
※2　国立障害者リハビリテーションセンター研究所「発達障害のある人のつらい感覚の問題とそのセルフケア」
※3 内閣府 改正障害者差別解消法（2024年4月1日施行）

■ 市場背景：子どもが“毎日使える”カームダウンハウスが少なかった

カームダウンハウスの市場は、大人でも使えるしっかりした造りの大型製品と、子ども向けの簡易・小型の製品が中心でした。ただ、子ども向け製品の多くは“隔離”や“無機質”な印象を与えるデザインで、安心して落ち着けるはずの場所が、かえって子どもにとって入りにくいものになっていたといいます。

そこで、遊具メーカーの知見を生かし、子どもが毎日遊ぶ前提で安全性を確保しながら、思わず入りたくなるデザインを作り込むことで、この空白を埋められると考えました。形状・サイズ・使い方をこの発想から逆算して開発したのが、今回の「ここにぃ」（まる／しかく）です。

■ 開発体制：テッグ株式会社・感覚過敏研究所・博展

本プロジェクトは、専門性の異なる3社による共同開発です。

テッグ株式会社：

遊具の企画・製作までを一貫して手がける遊具メーカーとしての知見・技術・デザインの提供。

感覚過敏研究所：

感覚過敏当事者としての知見提供、専門家としての監修。

博展：

体験デザインを軸に企業・団体のマーケティング課題解決を支援する立場から、プロジェクトマネジメント、課題整理、コンセプト開発、マーケットにおけるポジショニング設計を担当。

■ コンセプト：「遊び空間」と「カームダウンハウス」、ふたつの役割をひとつに

日常の「遊び空間」と、心身を落ち着かせる「カームダウンハウス」。2つの役割をひとつにすることで、特別な場所として構えず、子どもが安心して自分から立ち寄れる空間を目指しました。遊具として日常的に使うことで、カームダウンを必要としない子どもたちにとっても感覚過敏を知るきっかけとなり、当事者の抵抗感とまわりの無理解を同時に減らす設計です。

■ 製品概要：「ここにぃ」（まる／しかく）

あそべるカームダウンハウス「ここにぃ」シリーズは、大型でみんなでも入れる「まる」と、組み立て・移動が簡単なミニマムサイズの「しかく」の2種類を展開します。

『まる』：あそべるカームダウンハウス01

みんなで入れる、モコモコの空間。



・花のような形の柔らかいクッション構造で、ぶつかっても安心
・カーテンを閉めれば、光や視線をやわらげる、じぶんだけの空間に早変わり
・ゆったりサイズで、3〜5人で入って遊べる。日常の遊び場に自然に溶け込む
サイズ：直径 約1,350mm × 高さ 約1,200mm（テント部分の高さ 約900mm）
材質：ウレタンクッション、PVCレザー、スチール、カーテン生地 ほか
価格：1,280,000円（税別）

『しかく』：あそべるカームダウンハウス02

組み立て、移動も簡単にできるミニマムサイズ。



・あたたかみのある木製フレーム×テント構造。保育室にもなじむデザイン
・組み立て・移動がかんたんで、必要な場所にさっと設置できる
・省スペースなミニマムサイズ。ひとりでも2人でも過ごせる、ちょうどいい広さ
サイズ：幅 約1,050mm × 奥行 約1,050mm × 高さ 約1,050mm（テント部分の高さ 約800mm）
材質：ウレタンクッション、PVCレザー、ホワイトバーチ合板、カーテン生地 ほか
価格：248,000円（税別）

販売価格・製品の詳細は、以下の製品サイトでご確認ください。
https://teg.jp/calmdown/

■ 開発者コメント



大谷 宗平 氏／おおたに そうへい（テッグ株式会社　専務取締役）
実は私自身、カームダウンハウスを知ったのは他社製品がきっかけでした。「遊具メーカーの自分たちなら、どんな形にするだろう」。そう考えたのが始まりです。専門の違う3社だからこそ形にできた製品です。



加藤 路瑛 氏／かとう じえい（感覚過敏研究所　所長）
福祉や障害という大人の枠組みを超えて、子どもたちには「ここにぃ」を身近に感じてほしい。静かにしたいときは静かに、遊びたいときは思いっきり遊ぶ。誰もが気軽に使える居場所として、日常に溶け込んでほしいと願っています。



矢島 大 ／ やじま まさる（博展　中部・西日本ユニット　クリエイティブ局　プランナー）
秘密基地遊びと一人になれる場所。カームダウンハウスを2つの視点で再定義することで、当事者だけでなく、社会に対してもポジティブな影響を与えることを意識しました。

■ 各社概要

＜テッグ株式会社＞

代表者：代表取締役／田中健一郎
所在地：〒610-1106 京都市西京区大枝沓掛町26番地230
設立：2001年4月2日
事業内容：幼稚園・保育園・認定こども園の遊び環境を、企画・デザインから製作・施工まで一貫して手がけています。遊具という「もの」づくりにとどまらず、子どもの記憶に残る環境づくりに取り組んでいます。
WEB：https://teg.jp/

＜感覚過敏研究所＞

代表者：代表取締役社長／加藤路瑛
所在地：〒103-0003 東京都中央区日本橋横山町6－14　日本橋DMビル5階
創業：2018年12月
感覚過敏の啓発や研究、対処用品・サービスの企画・販売、当事者コミュニティの運営など、感覚過敏の課題解決に取り組む研究所。カームダウンスペースの導入支援や開発・販売も手がけています。
WEB：https://kabin.life/

＜株式会社博展＞

代表者：代表取締役 会長執行役員／田口 徳久、代表取締役 社長執行役員 CEO／原田 淳
所在地：〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目１番１号 東京スクエアガーデン20F
設立：1970年3月
事業内容：パーパス「人と社会のコミュニケーションにココロを通わせ、未来へつなげる原動力をつくる。」のもと、多様な“体験”を統合的にデザインし、企業や団体のマーケティング課題の解決に貢献しています。

WEB：https://www.hakuten.co.jp/

▼公式SNS
Instagram：@hakuten__（https://www.instagram.com/hakuten__）
X：@HakutenCorp（https://x.com/HakutenCorp）

▼本件に関するお問合わせ先
株式会社博展　広報・PR担当
E-mail : pr@hakuten.co.jp